

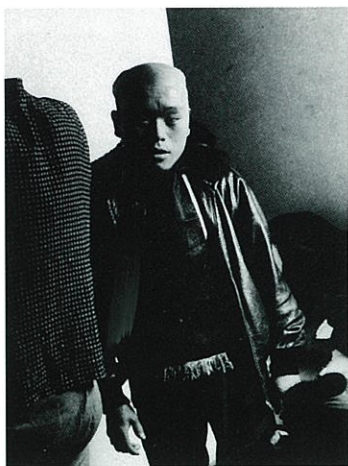


森山大道

I. レトロスペクティヴ 1965-2005

II. ハワイ

展



《にっぽん劇場》1966年 東京都写真美術館蔵

森山大道

I. レトロスペクティヴ 1965-2005

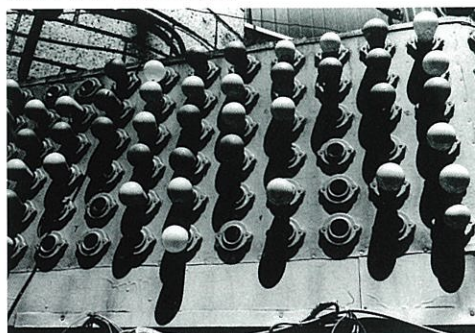
II. ハワイ

展

《光と影》1981年 東京都写真美術館蔵



《光と影》1982年 東京都写真美術館蔵



「僕にとって写真とは一枚の美しい芸術作品を作るためのものではなくて、撮っても撮っても撮りきれず追い切れない膨大な世界の断片と、抜き差しならない自己の生の時間との交差する一点に、真のリアリティーを見つけるための、唯一の手段としてあるのだといえる。」

(主観的スナップ『アサヒカメラ』1970年より)

森山大道は半世紀近い写真家の活動を、一貫して路上に置き、そこから見える日常の断片をスナップショットに収めています。その膨大な路上の記録／記憶は、欲望、孤独、不安など見る人の感情を時代や国を超えて揺さぶり続けます。

このたび、東京都写真美術館では、1960-70年代より日本写真界の旗手として第一線で活躍し、現在、世界的に高い評価をうけている森山大道の「足跡」と「今」を2つの展覧会によって展観します。

レトロスペクティヴ/ RETROSPECTIVE 1965-2005

3階展示室

主催: 東京都 東京都写真美術館、産経新聞社

3階展示室では、東京都写真美術館収蔵作品を中心に森山大道の足跡を回顧します。本展の展示構成は写真家としてデビューした60年代にはじまり、写真への問いをラディカルに突き詰めた70年代、スランプからの再起を果たした80年代、そして躍進を続ける90年代から今日へと、今年70歳を迎える写真界の巨人の足跡を時代ごとに追っていきます。「写真とは何か」、森山大道が問い続けた写真の軌跡を代表作品、未発表作品約150点で再現します。

東京都写真美術館コレクションより

にっぽん劇場 1966年

森山大道、初期の代表作。寺山修司の依頼で、寺山の文章につける写真原稿として芝居小屋や大衆芸能を撮り始めた。これらを1967年1月『カメラ毎日』に《にっぽん劇場》と名づけ発表。同年、この芸能シリーズで日本写真批評家協会新人賞を受賞した。

プロヴォーク 1969年

「挑発」を意味する名の同人誌『プロヴォーク』は、サブタイトルに〈思想のための挑発的資料〉と掲げ、中平卓馬、多木浩二らとともに写真が言葉を挑発するといったラディカルな問題提起を行った。森山は第2号から参加し、「エロス」をテーマに自らの情事の写真を発表。

北海道 1970年代

プロヴォーク以降、写真に対し懐疑を深め、写真が思うように撮れなくなった70年代後半、森山は札幌を拠点として北海道に3ヶ月間滞在し、一人で各地を撮影した。写真家の孤独と苦悩をにじませながらも、叙情性に富む一連の作品群が生み出された。

光と影 1981-82年

長いスランプのあとの復帰作。1981年『写真時代』創刊号より《光と影》シリーズを開始し、翌年写真集として出版された。「写真とは何か」と問い続けてきた森山は、「写真は光と時間の化石である」と、最古の写真を残したニエプスからその答えを見出した。光を単純、明快に捉えたこのシリーズを機に森山は復活、83年日本写真協会年度賞を受賞した。

Daido hysteric 1990年代 / 新宿 2001-02年

森山大道の90年代はファッションメーカー「ヒステリックグラマー」が発行する『ヒステリック』シリーズで新たな展開をみせる。従来の叙情性を断ち切り、力強く対象に迫るこのシリーズは森山の再進撃の舞台となった。2000年代に入ると活動拠点の新宿を撮った写真集『新宿』を発行。600頁からなる圧倒的な量感と迫力で毎日芸術賞を受賞。「Daido Hysteric」、「新宿」とともに2006年東京都写真美術館コレクションに加えられた。

関連事業

森山大道連続対論

5月23日|金| 森山大道×大竹伸朗(美術家) 司会: 笠原美智子(東京都写真美術館学芸員)

5月24日|土| 森山大道×多木浩二(美術・写真評論家) 司会: 清水稔(同志社大学准教授)

5月30日|金| 森山大道×金平茂紀(TBSテレビ報道局長) 司会: 岡部友子(東京都写真美術館学芸員)

※当日午前10時より展覧会チケットをお持ちの方に整理券を配布します。

詳細は東京都写真美術館ホームページでご確認ください。

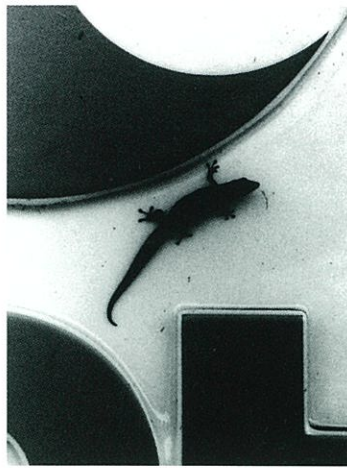
フロアレクチャー

第2、4金曜日午後2時より、担当学芸員による展示解説をおこないます。

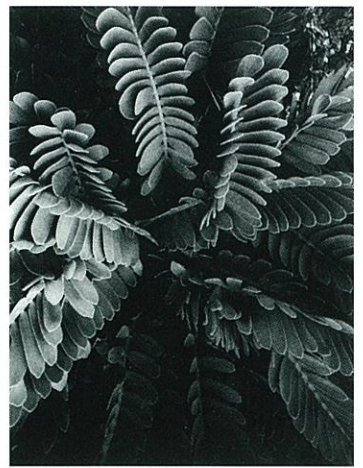
当日有効の展覧会チケットをお持ちの方はどなたでも参加できます。



《ニューヨーク・シティ》1971年 東京都写真美術館蔵



《ハワイ》2007年



《ハワイ》2007年

ハワイ/HAWAII

2階展示室

主催: (財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、産経新聞社

2階展示室では森山大道の最新作「ハワイ」を取り上げ紹介します。2004年から足かけ3年の歳月を費やし、ハワイ島、オアフ島を舞台に、神秘的な自然と人々の日常をモノクロームで捉えた、森山大道独自のハワイ。本展は写真集『ハワイ』に掲載された約300点から森山大道自らが展示構成を行い厳選した作品約50点に特大サイズのプリントを加え一堂に公開します。

DAIDO MORIYAMA

I. RETROSPECTIVE 1965-2005

II. HAWAII

プロフィール: 森山大道 (1938-)

商業デザイナーを経て、写真家、岩宮武二、細江英公に師事。63年フリーの写真家となり、65年『カメラ毎日』に〈ヨコスカ〉を発表。以後写真雑誌などで作品を発表し続ける。67年《にっぽん劇場》で日本写真批評家協会新人賞受賞。69-70年には多木浩二、中平卓馬らによる先鋭的な写真同人誌『プロヴォーク(挑発するの意)』に参加し、ハイコントラストや粗粒子画面の作風を展開。「アレ、ブレ、ボケ」と形容される荒々しい写真表現はこれまでの写真の概念に一石を投じた。極限まで写真表現を突き詰めた問題作『写真よさようなら』(72年)、スランプからの再起となった『光と影』(82年)など、発表する写真集はどれも注目を集めた。一貫して路上から見た日常の断片を撮り続け、その力強い作品群は国や世代を超えて高く評価されている。1999年、個展をサンフランシスコ近代美術館で、2003年にはパリ、カルティエ現代美術財団で開催するなど海外での評価はますます高まっている。一方、国内においても83年日本写真協会年度賞受賞、2003年写真集『新宿』により第44回毎日芸術賞受賞。同年、島根、北海道、川崎で大規模な回顧展が開催された。2004年ドイツにて写真協会文化功労賞受賞。2007年最新作『ハワイ』を発表、セビリア(スペイン)、ケルン(ドイツ)で回顧展を開催するなど、現在も精力的に活動を続けている。



《ハワイ》2007年



《ハワイ》2007年



《ハワイ》2007年

入場料金

一般 1,100円(880円)、学生 900円(720円)、中学生・65歳以上 700円(560円)

※()は20名以上の団体料金

【 展覧会はフロアごとに鑑賞することもできます。】

「レトロスペクティブ 1965-2005」の入場料金

一般 500円(400円)、学生 400円(320円)、中学生・65歳以上 250円(200円)

※()は20名以上の団体料金

※東京都写真美術館友の会会員/小学生以下/障害をお持ちの方と介護者/第3水曜日に観覧する65歳以上は無料

「ハワイ」の入場料金

一般 800円(640円)、学生 700円(560円)、中学生・65歳以上 600円(480円)

※()は20名以上の団体料金、東京都写真美術館友の会会員

※小学生以下/障害をお持ちの方と介護者/第3水曜日に観覧する65歳以上は無料

アクセス

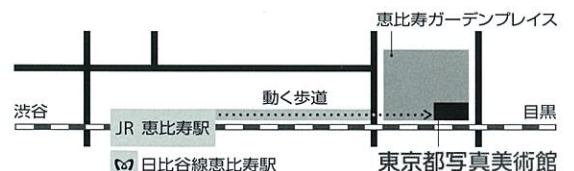
東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TEL: 03-3280-0099 URL: www.syabi.com

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分/東京メトロ恵比寿駅より徒歩約10分

お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください





2008年5月13日|火| - 6月29日|日|
東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
TEL: 03-3280-0099 URL: www.syabi.com

主催: I. レトロスペクティヴ 1965-2005: 東京都 東京都写真美術館、産経新聞社

II. ハワイ: 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、産経新聞社

特別協賛: カルティエ 協賛: EPSON 協力: タカ・イシイギャラリー

後援: サンケイスポーツ、夕刊フジ、フジサンケイビジネスアイ、izal、SANKEI EXPRESS

開館時間: 10:00-18:00 [木・金は20:00まで/入館は閉館30分前まで]

休館日: 毎週月曜日

入場料金: 一般 1,100円(880円)、学生 900円(720円)、中高生・65歳以上 700円(560円)

※()は20名以上の団体料金